

紙ふうせん

KAMIFUSEN NO.43

成田市立図書館だより 第43号 1999年（平成11年）8月31日発行

編集 成田市立図書館 〒286-0017 成田市赤坂1-1-3 ☎ 0476-27-4646
FAX 0476-27-4641

- ★図書館は10月27日で満15歳を迎えます
- ★話題の本15年



図書館は10月27日



今年15周年を迎える成田市立図書館
 過ごしているのでしょうか。図書館

図書館の12ヵ月



- 4月 -

新年度を迎えて何かと慌ただしい時期。学校では、新学期が始まります。図書館では現在10校に、訪問おはなし会を行っています。「なかよし号」も、3校を巡回。



- 5月 -

ゴールデンウィークです。日本、世界を旅するチャンス。図書館では、ガイドブックを借りに来る方が増えます。ぜひ、図書館の本の旅のお供に連れて行ってください。

- 6月 -

6月上旬になると、図書館は蔵書の一斉点検のため、約2週間のお休みになります。点検する本数は1人あたり1日約6000冊です。



- 7月 -

7月7日は七夕です。図書館にも笹が飾られ、毎年たくさんの願い事が・・・外国の方で、七夕に興味をもち、洋書の日本事典で調べている方もいました。

- 8月 -

夏休み—この時期、大勢の子供たちでにぎわいます。本を読んだり、調べものをしたり・・・。分からないこと、困ったことがあったら本の相談コーナーへどうぞ。また、2階には参考資料室があります。事典や郷土資料が豊富です。



- 9月 -

9月から11月にかけて、秋の文学講座が開催されます。一般、児童、市史関係の計3回。それぞれ講師の方をお招きして講演会が開かれます。ぜひ、楽しいお話を聞きにいらしてください。



※成田市立図書館の15
 何の数だけわかります

674,529 冊

= 15年間の総蔵書冊数



3,136,190 人

= 15年間の総利用者数



1,190 回転

= 最も多く読まれた本
 (一般)

『ノルウェイの森 (上)』
 村上 春樹 / 著
 講談社

で満 15 歳を迎えます

書館。毎年毎年どんな風に1年の
の12カ月を振り返ってみましょう。



－ 10月－

読書の秋。玄関わきの特設コーナーでは、年6回、いろいろなテーマでさまざまな本を紹介しています。興味のある本があったら、ぜひ借りてみてください。



－ 11月－

そろそろ出歩くのがおっくうになる季節。巡回図書館や分館にも、楽しい本がそろっています。遠方の方は、こちらを利用してみてはいかがでしょうか？リクエストも受け付けていますよ。

－ 12月－

クリスマス近くになると、児童コーナーに巨大なもみの木が飾られます。子供たちに好評です。また、この時期には大人のためのおはなし会を開きます。昔に戻った気分で、楽しいおはなしを聞いてみませんか。



－ 1月－

年末年始は、長いお休みになるので、ブックポストは使えません。貸し出し期間は、その分長くなりますので、じっくり本を選んでください。



－ 2月－

アウトドア派はウィンタースポーツに、インドア派は音楽やビデオ鑑賞などはいかがでしょうか。図書館では、視聴覚資料もそろっています。CDは2点まで借りられます。ビデオは館内でご覧ください。

－ 3月－

春休みには、毎年春休みおはなし会が開かれます。2部構成で、1部はお母さんと一緒に聞ける幼児向けのおはなし会。2部は小学生が対象です。また、通常のおはなし会は毎週土曜日午後3時から。一人で聞けるお子様が対象です。ベルがなったらおはなし会が始まる合図です。



年間を数で表すと・・・
か？



3,012 回転

＝最も多く読まれた本
(児童)

『おおきなかぶ』
内田莉莎子／著
福音館書店

14,834,358 冊

＝15年間の総貸出冊数



10,606 冊

＝1日の最高貸出冊数
※平成6年6月5日



話題の本 15年

◆1984（昭和59）年

『愛のごとく』 渡辺 淳一（新潮社）
書籍不振の年といわれ、ミリオンセラーが1冊も出ない中、渡辺淳一の作品は広く読まれた。

◆1985（昭和60）年

『女の器量は言葉しだい』広瀬 久美子（リヨン社）
この年も、書籍不振の傾向が深まる。著者のアナウンサーとしての人気、作品の人気を呼ぶ。

◆1986（昭和61）年

『化身』 渡辺 淳一（集英社）
出版界を活性化するような作品はあまり見られず、『化身』は文芸書で久しぶりのミリオンセラーとなる。



◆1987（昭和62）年

『サラダ記念日』 俵 万智（河出書房）
青春を素直なわかり易い言葉でよんだ歌が、ヤング層の共感を呼んだ。この作品のヒットで、一躍有名人となった。

◆1988（昭和63）年

『ノルウェイの森』 村上 春樹（講談社）
'60年代後半を舞台にした長編青春小説。長期間ベストセラーの上位を維持し続け、社会的ブームを巻き起こした。

◆1989（平成元）年

『TUGUMI』 吉本 ばなな（中央公論社）
“吉本ばなな現象”と呼ばれるほどの人気を集め、出す作品は常にベストセラーの上位にランキングされた。



◆1990（平成2）年

『愛される理由』 二谷 友里恵（朝日新聞社）
恋愛をテーマにした出版が目立った。他に柴門ふみの『恋愛論』など、若い女性の共感を得た。

◆1991（平成3）年

『もものかんづめ』 さくら ももこ（集英社）
人気漫画「ちびまる子ちゃん」の背景を彷彿させる抱腹の読物。若い女性に大人気となった。

◆1992（平成4）年

『それいけ×ココロジ』 （青春出版社）
クイズ本ブームの中、心理学の要素を加味して大ヒットとなった。この本に刺激され、関連本が続出した。

◆1993（平成5）年

『磯野家の謎』 東京サザエさん学会（飛鳥新社）
この年、人気漫画やTVアニメ、映画を素材にして、架空のヒーローの謎を解き検証するという「謎本」が大ブームとなる。

◆1994（平成6）年

『大往生』 永 六輔（岩波書店）
「死」という重いテーマをさりげないタッチで掘り下げた点が、読者の共感を呼んだ。

◆1995（平成7）年

『ソフィーの世界』
ヨースタイン・ゴルデル（日本放送出版協会）
哲学入門書ではあるが、物語り風に展開する方法が斬新で、若者から中年層まで幅広く読まれた。



◆1996（平成8）年

『脳内革命』 春山 茂雄（サンマーク出版）
この年は、脳科学を取り上げた書籍がブームとなった。中でも『脳内革命』は、平成の大ベストセラーとなった。

◆1997（平成9）年

『失楽園』 渡辺 淳一（講談社）
小説でこれほど売れたのは久々の『失楽園』。新聞連載後、映画化・TVドラマ化され、話題を呼んだ。

◆1998（平成10）年

『大河の一滴』 五木 寛之（幻冬舎）
親鸞の『歎異抄』に触れながらの人生論、人間論。精神的な飢えを癒すに足る書として、多くの読者に受け入れられた。

成田市立図書館だより

発行	成田市	発行日	1999.8.31
編集	成田市立図書館	登録番号	成教図526
〒286-0017 成田市赤坂1-1-3		☎	0476-27-4646